

感染症による出席停止について

●第1種学校感染症●《発生はまれだが重大な感染症》 治癒するまで出席停止とする。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルク病、ラッサ熱、急性灰白髄膜炎、ジフテリア、南米出血熱、痘そう、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1型)、指定感染症および新感染症(新型インフルエンザ等)

●第2種学校感染症●《放置すれば学校で流行がる可能性がある主要な感染症》 出席停止期間を守る。

| 病名 | 出席停止期間 | 主な症状 | 侵入経路 | 潜伏期間 |
|------------------|--|--|----------|--------|
| インフルエンザ(H5N1を除く) | 発症後5日を経過し、かつ、解熱後2日を経過するまで | 急な発熱、頭痛、全身倦怠感、関節痛、鼻水、咳 | 飛沫・接触 | 1~5日 |
| 新型コロナウイルス感染症 | 発症後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで | 発熱、咽頭痛、倦怠感、咳、鼻水等 | 飛沫・エアロゾル | 2~3日 |
| 百日咳 | 特有の咳が消失するまで、又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで | はじめは普通のかぜ症状で始まり、次第に特有の咳(コンコンという連続した咳の後、息を吸う時にヒューヒューという笛音が出る)が出てくる。 | 飛沫・接触 | 7~10日 |
| 麻疹(はしか) | 解熱した後3日を経過するまで | 発熱、咳、鼻水、結膜炎。頬の内側に白い斑点。発熱後4日より皮膚に発疹。 | 飛沫・接触 | 10~12日 |
| 流行性耳下腺炎(おたふく) | 耳下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、全身状態が良好になるまで | 唾液腺の腫脹、圧痛、えん下痛、発熱 | 飛沫・接触 | 14~18日 |
| 風疹(三日はしか) | 発疹が消失するまで | 発熱、赤い発疹、リンパ節腫脹(耳、首の後ろ、後頭部の下などが腫れる) | 飛沫・接触 | 14~21日 |
| 水痘(水ぼうそう) | すべての発疹が痂皮化するまで | 発疹(紅班・丘疹・水疱・痂皮)が体中に次々と出る。痂皮となり先に出たものからなおっていく。 | 飛沫・接触 | 10~21日 |
| 咽頭結膜熱(プール熱) | 主要症状が消退した後2日を経過するまで | 発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、のどの痛み、結膜充血、眼痛、流涙等 | 気道・結膜接触 | 5~7日 |
| 結核 | 症状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認められるまで | 初期は自覚症状なし。X線検査で発見されることが多い。倦怠感、寝汗、体重減少、咳、痰、胸痛 | 飛沫 | 1~2ヶ月 |
| 髄膜炎菌性髄膜炎 | 病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認められるまで | 頭痛、発熱、けいれん、意識障害、髄膜刺激症状 | 飛沫 | 3~4日 |

●第3種学校感染症●《放置すれば学校で流行がる可能性がある感染症》 出席停止の個別の基準はない。

「病状により医師の指示に従う。症状により、登校してもよいと医師が判断した時は登校できる。」

| 病名 | 出席停止期間 | 主な症状 | 侵入経路 | 潜伏期間 |
|---|-----------------------------------|-----------------|------|---------|
| 流行性角結膜炎 | 病状により学校医その他の医師において感染のおそれがないと認めるまで | 流涙、眼瞼の浮腫、結膜炎 | 接触 | 8~14日 |
| 急性出血性結膜炎 | | 目の強い痛み、充血、めやに | 接触 | 24~36時間 |
| 腸管出血性大腸菌感染症(O-157) | | 水様性の下痢、激しい腹痛、血便 | 経口 | 3~5日 |
| 腸チフス、パラチフス、コレラ、細菌性赤痢、その他の感染症(マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、溶連菌感染症、ヘルパンギーナなど) | | | | |